

# 三位一体の山づくり

村を中心とした森林の整備



森林所有者、森林整備の担い手、市町村職員の皆さんを一同に介してフォーラムを開催しました



北相木村が独自に取組んだ収入間伐モデル林 左：列状間伐 右：点状間伐

美しい生活環境

環型資源として注目されている県

産木材は、戦後一斉に先人達の手により植林されてから長い年月を掛けてゆつくりと大きく成長しています。

佐久地方では主にカラマツが植林され、知らず知らずのうちに私たちはカラマツに囲まれた美しい自然環境の中で生活しています。

森林の手入れ

私たちの生活基盤を守る公益的な働きを持つ森林にはその森林を所有する方々があります。私たちの知らない間に所有者の方々は経費と手間を掛けて森林の手入れをしていました。

ですが、近年は森林所有者の山離れ、経営意欲の減退などから森林の手入れが遅れています。

森林整備の担い手

自ら森林の手入れが出来ない森林所有者に代わって地域の森林組合、業者の方々が森林の整備を委託され行っていました。

最近、木材価格の低迷から間伐した材木を生産することが難しい状況で、生産経費をより少なくすることが求められています。

三位一体の効率アップ

北相木村では、森林は村の貴重な財産と位置付け、個々に行われていた森林の整備の効率を良くするために、村が村内の森林所有者の施業承諾を取り、一まとめにして森林整備を委託し、所有者、担い手、村が三位一体となり効率の良い間伐施業と木材生産を行っています。